

## Clinical Efficacy of Biosimilar Switch of Adalimumab for Management of Uveitis

ヒュミラからバイオシミラーの切り替えのぶどう膜炎における臨床効果

Murray GM, Griffith N, Sinnappurajar P, Al Julandani DA, Clarke SLN, Hawley DP, Choi J, Guly CM, Ramanan AV.

Ocul Immunol Inflamm. 2024 May;32(4):442-446.

アダリムマブ（Humira）は非感染性ぶどう膜炎に対して有効であることが示されています。しかし、Humiraの特許が切れ、バイオシミラーが開発されることで、経済的理由からバイオシミラーへの切り替えが世界的に求められています。バイオシミラーは元の薬と完全に同一ではないため、効果の減少や免疫原性の変化、安全性の違いが懸念されています。本研究の目的は、バイオシミラーである Amgevita への切り替えが小児および成人のぶどう膜炎患者に対して臨床的に有効であるかを評価することです。3つの英国の第三次医療機関で、Humira から Amgevita に切り替えが行われた2～75歳の102名の患者を対象としています。切り替え前後でぶどう膜炎の発作率に有意差はなく（ $p = 0.132$ ）、眼圧上昇の頻度は有意に減少（ $p = 0.006$ ）しており、Amgevita は Humira と比較して非劣性が示されましたが、24名（24%）の患者が注射の痛みやデバイスの技術的な問題から Humira への再切り替えを希望されました。本研究の結果は本邦でも必要となるバイオシミラーへの切り替えに対して有益な結果です。また今後、バイオシミラー切り替え後の長期成績に関して、今後のさらなるエビデンスの蓄積が望まれます。

（担当者： 東京医科大学 坪田 欣也）